SERVICE CLUB WITH THE YMCA Chartered Feb. 6, 1931
Y'S MEN INTERNATIONAL TOKYO CLUB
C/O TOKYO YMCA TOYOCHO CENTER, 2-2-20, TOYO, KOTO-KU, TOKYO, JAPAN (135-0016) TEL.(TOKYO)3615-5568
Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs
ワイズメンズクラブ国際協会東京クラブ(東日本区東新部) 135-0016東京都江東区東陽2-2-20東京YMCA東陽町センター電話03-3615-5568

会　　長：渡邉　実帆
副 会 長：
直前会長：進藤　重光
書　　記：佐々木行恵
会　　計：加藤　義孝
担当主事：山梨　雄一

とうきょう

例　会　第２火曜日18:30～20:15
　　於・東京YMCA東陽町センター
役員会　第３火曜日18:30～20:00
　　於・東京YMCA東陽町センター
問い合せ　電話 03-3615-5568

2026年7月～2027年6月11月号

◆国際会長主題：ブルーミュージックで眠れる巨人を目覚めさせる
◆地域会長主題：アジア太平洋地域をブルーミュージックで目覚めさせる　◆東新部部長主題：顔を上げよう！
◆東日本区理事主題：挑戦なくして進化なし　◆クラブ会長主題：集う喜び、響くハーモニー、そして未来へ
月間強調＝東日本区:BF・iGo・STEP　クラブ:ユース

今月の聖句

わたしたちは、与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っていますから、預言の賜物を受けていれば、信仰に応じて預言し、奉仕の賜物を受けていれば、奉仕に専念しなさい。

出典　ローマの信徒への手紙 12章6-7節
『聖書　新共同訳』ー新約聖書（c)共同訳聖書実行委員会（c)日本聖書協会

11月例会ユースナイト
東京クラブ・東京むかでクラブ合同例会

日時：2026年11月10日（火）18:30～20:30
会場：東京YMCA東陽町センターYMCAホール
　　東京都江東区東陽 2-2-20（03-3615-5568）
受付：長澤弘、細川剛

	司会	松本数実（東）
1. 開会点鐘	会長	渡邉実帆（東）
2. ワイズソング	ー	同
3. 聖書朗読、祈祷		星野太郎（東）
4. ゲスト・ビジター紹介	会長	渡邉実帆（東）
5. Happy Birthday! Happy Anniversary！		
6. ゲストスピーチ		
	東京YMCAにほんご学院留学生	
7. スマイル	各クラブ（会計	加藤義孝）
8. YMCAの歌	ー	同
9. 閉会点鐘	会長	今井武彦（む）
10. ワイズディナー（会員消息、諸報告）		

11月17日(火) 東京クラブ役員会(Zoom)
11月23日(祝) 大江戸ファミリーウォーク(東陽町)
11月26日(木) 第2回東新部評議会(山手)
12月13日(日) クリスマスオープンハウス(東陽町)
12月15日(火) 東京クラブクリスマス例会(東陽町)
1月 9日(土) 在京ワイズ合同新年会(東陽町)
3月 6日(土) 東新部部コンベンション(東陽町)

文明の進歩に伴う問題

加藤義孝

最近AIが急速な進歩を遂げ、あらゆる分野に活用され始めました。最先端技術、知的業務効率化、データ分析、画像処理、音声処理、医療分野、気候予測、生成AIソフト開発、AIデータマネジメント、等沢山の分野のデータが保存され、これらの基本となる膨大なデータを保存するデータセンターが必要となっております。このデータセンターは大きな電力と大きな構造の建物が必要となります。最近日本でも世界でもデータセンターが必要とされ国家予算として計上されています。経済発展や国防、あらゆる分野に活用されることが期待されています。しかし地域にとって大変迷惑な事が起こります。低周波騒音、熱の発生等、しかし雇用をあまり必要とはしない産業なのです。それで地域が反対をしています。これは日本だけではなく世界中の問題です。ひと昔前に原子力発電所を作るのが地域や国の問題として対立が起こり現在も解決をしておりません。この問題と同じような事が火葬場、葬儀場です。地域の人は、近くには来てほしくないがなくては困るという施設です。このような問題は解決策がなかなか見つからないのですが、大切なことはコミュニティーを作り問題を共有して話し合う場が求められていることではないでしょうか。

10月の記録		出　席		出席率修正	BFポイント		ファンド	
在　籍	19 名	メネット	0 名		切　手	0 g	スマイル	5,600 円
内功労・広義会員	6 名	コメット	0 名		累　計	0 g	累　計	18,810 円
出　席	8 名	ゲスト	2 名		現　金	0 円	オークション	0 円
内功労・広義会員	0 名	ビジター	6 名		累　計	0 円	累　計	0 円
メーキャップ	0 名						バングラバッグ	370 円
出 席 率	62 %	出 席 計	16 名				累　計	720 円

★強い義務感をもとう　義務はすべての権利に伴う★

10月例会EMCナイト報告

長澤　弘

日時：2026年10月20日（火） 18:00～20:00
会場：東京YMCA東陽町センターYMCAホール＋Zoom

10月例会は東京むかでクラブとの合同例会として、むかでクラブの主催で行われた。メインテーマは「今年の野尻学荘を振り返る」と題して行われた野尻学荘のユースリーダー二人による、今年８月に行われたキャンプの報告である。男子だけ、電気が使えない２週間の少年のキャンプとして、学荘の魅力を十分に語っていただいた。以下にその要約を記す。

東京YMCAが主導する長野県野尻湖畔での伝統的なキャンプ活動「第89回野尻学荘」についての報告会が行われた。本多良章担当主事をはじめ、リーダーを務めた内海蓮氏と杉田悠真氏の両名により、活動概要やプログラム内容、野尻学荘の魅力、そして自身の成長や体験が語られた。

野尻学荘は1932年に創設されたキャンプ場に端を発し、現在も男子限定の「ボーイズキャンプ」として継続している。かつては1ヶ月以上に及ぶ長期開催であったが、時代の変化に伴い現在は13泊14日（日本YMCA内では最長）の日程で実施されている。第89回となった2026年は、8月4日から17日にかけて行われ、小学5年生から高校3年生までの男子44名（定員40名を越える参加）、リーダー23名、ゲスト12名が参加した。キャンプの日常は、メインホールでのボードゲームや楽器演奏、湖畔での遊びなど、生活基盤を整えることから始まる。序盤に開催された親睦会では、今年度からプログラムリーダーとスタッフが司会を担当することで、カウンセラー（リーダー）が少年の親睦深化に専念できる環境が整えられた。

主要プログラムとして遠泳・快泳、ボンファイア、アウティング（野外活動）、夕陽会、スタンプ（出し物）などが挙げられた。遠泳・快泳は参加者にとって大きな達成感と自信をもたらすものであり、今回は快泳（35名達成）および遠泳（40名達成）において非常に高い成果を修めた。これは参加した少年の努力だけでなく、リーダー陣の経験値向上と適切な安全・モチベーション管理の賜物であると評価された。また、山登りなどのアウティングでは、学年ごとに難易度の異なるコース（小学生の野尻湖一週から高校生の妙高山まで）に挑戦し、普段の実習やキャビン（小屋）で培ったチームワークを発揮して困難を乗り越えた。

実習プログラムには、セーリング、ローイング、水泳、カッター、アーチェリー、音楽、ならびにマダガスカル帰りのリーダーによるフランス語・言語学実習といった多岐にわたる種目が用意された。学年を越えた仲間と同一目標に向かって協力し合うことで、少年たちの社会性や自立心が育まれた。

野尻学荘の独自の魅力として、次の3点が強調された。1点目は「男子のみの環境」であり、学校とは異なる独特の連帯感や率直な関係性が生まれることである。2点目は「2週間の長期滞在」であり、単に楽しい時間だけでなく、意見の衝突や不満を乗り越えて深い理解と絆を築ける点である。3点目は「電気のない不便さ」であり、デジタル機器から離れた「デジタルデトックス」環境の中で自然や人との生の実感的な関わりに没頭できる点である。

質疑応答では、生活の中での具体的な衝突例や個々の成長について問われた。内海氏は、カードゲームを巡る小学生同士の感情的な大喧嘩に対し、感情論に流されない対話の重要性を諭した経験や、全く泳げなかった少年が練習を重ねて遠泳を完走した事例を挙げた。杉田氏は、高校生たちがアウティングでの不満について自発的にキャビン全員での話し合いの場を設け、課題解決に導いた事例や、日本語に不安を抱えていた少年が最終日に打ち解け自信を深めたエピソードを共有した。また、杉田氏はリーダーとして自身のメンタル管理や休息の取り方を学び、余裕を持って子どもたちに向き合えるようになったという個人としての成長も明かした。
最後に、かつて参加者として活動し現在はOB組織「学荘クラブ」などを通じて支援を続ける社会人や先輩方からの寄付や後援に対し感謝が述べられ、野尻学荘が少年だけでなくリーダーの成長をも促す貴重な場であることが改めて確認されて報告会は締めくくられた。



[出席者]東京：メン＝加藤、小島、佐々木、長澤、星野、松本（数）、山梨、渡邉（8名）。東京むかで：伊丹一之、今井武彦、神保伊和雄、本田良章、宮田康夫（5名）。ゲスト＝杉田悠真、内海蓮（2名）。ビジター＝東京多摩スマイル：深尾香子（1名）。合計16名。

10月役員会（第２例会）報告

書記　佐々木行恵

日時：2026年10月27日（火） 19:30～21:00
会場：Zoom

Ⅰ．前回役員会記録承認
Ⅱ．報告
1. 10月例会報告
2. 会計報告

a. 会費の未入金あり。(広義会員へ請求は検討中)
b. .請求書送付予定、休会扱いの会員あり

Ⅲ. 協議

1. 11月例会(ホスト:東京クラブ)
「ユースナイト」にほんご学院の学生を招待
参加者:学生:7〜8名＋引率教員
会費の取り扱い:学生無料・教員は要領収書
＜内容＞
a. パネルディスカッション形式
b. テーマ
・来日時の日本の印象と来日した後の変化
・国と日本の違い(考え方・価値観)
・今気になっている世界の問題

2 1月の例会にていて

3. チャリティウォークについて
参加:渡邉、長澤、加藤、佐々木、他要確認.

[出席者] メン＝江口、加藤、佐々木、長澤、渡邉。合計5名。

Y友広場ワイワイウォーク深川報告

長澤 弘

日時:2026年10月12日(月・祝日) 10:30〜13:30
会場:門前仲町〜森下

東新部Y友広場では第8回になる「ワイワイウォーク深川江戸散歩」を好天の元、ゲスト・ビジターを含め15名参加で賑やかに開催しました。





門前仲町の深川不動では梵字で覆われた本堂に驚き、江戸三大祭り一つの富岡八幡宮の横綱の碑、江戸資料館、松平定信の墓標のある霊巌寺、門前で失礼した清澄庭園、松尾芭蕉の住んだ芭蕉庵などを経めぐり森下で解散しました。そのあと、二手に別れましたが、深川飯の老舗、みや古で深川飯の昼食で締めました。深川はYMCAの本拠地の街ですが色々知らない歴史があります。松平定信寛政の改革、松尾芭蕉の俳句のことなどワイワイと大勢で喋りあいながら、江戸の庶民の歴史のウォークを楽しみました。

[参加者]東京:江口耕一郎、加藤義孝、小島康良、長澤弘、東京多摩スマイル:伊藤幾夫、深尾香子、東京グリーン:樋口順英、東京ワイドウエスト:小原史奈子、ゲスト:大輪正史、麻生由美子、斉藤陽子、吉村康史、石黒禎三郎、劉玄飛、平野公一。合計15名。

熱海クラブでメーキャップ？

渡邉実帆

日時:2026年9月28日(月) 18:30〜
会場:新かどや(熱海クラブ例会場)

少し前の話になりますが、9月8日(火)東京クラブ例会に参加しようと(午前中から用事もあったので)東京に出かけました。9月は毎日雨！雨！で線状降水帯云々、お天気が気になりながら、車で行こうか新幹線で行こうか悩んだのですが、速い新幹線を選ぶことに。ちょっと例会には早いけど、と思いながら東西線に乗り込んだその時、新幹線が止まっていることを知り、ええ〜っ(汗)帰れなくなったらどうしよう。帰宅難民になったらどうしよう。行くか帰るか悩んだ末、茅場町でおり、Uターン。東京駅に行った時にはまだ動いていなくて、切符売り場は長蛇の列。新幹線は動く様子もないので、在来線へ。在来線はなんとか動いていたので、結構混んだ電車で無事戻りました。





ということで、結局自クラブ例会には出られず、9月28日熱海クラブの例会に出席。またまた入会者4名の入会式あり。卓話は細田会長のご友人で弁護士の若狭勝氏。ちょうど東京クラブ卓話も大槻弁護士の卓話だったため、9月は弁護士さんとのご縁を感じ……。熱海クラブは10月も1名の入会があったそうです。あの勢いを何とか「東京」に持って来られないか思案中です。メーキャップの件ですが、実際は役員会に出ているので、「メーキャップは不要」でしたが、『動くこと』に意味はあると思います。

[東京クラブからの参加者]メン＝渡邉。合計1名。

東京YMCAにほんご学院入学式出席報告

長澤　弘

日時：2026年10月6日（火）13：00～14：00

会場：東京YMCA社会体育・保育専門学校

10月6日東京YMCAにほんご学院の2026年10月度新入生の入学式があり、出席させて貰いました。幅の広い国々から25人の若い人が入学され代表の人が決意を述べられました。渕上先生の話を聞き、学生さん達の真剣な眼差しを見て、出席していただけで何となく目が潤みました。頑張って下さい。日本のよい所を好きになって下さい。そして幸せな明日を掴んで下さい。



第30回かながわ部大会報告

江口耕一郎

日時：2026年10月11日（日）15：00～20：00

会場：湘南とつかYMCA　（参加者総数42名。懇親会24名）

部大会当日は三連休の中日かつ日曜日であり、会場の都合等で調整を重ねた結果としてこの日の開催となったが、晴天に恵まれ、明るく希望に満ちた素晴らしい大会となった。

本会合のプログラムは大きく三部構成となっており、第1部が会務報告、第2部が青少年アクションプログラム等の活動報告、第3部がミニミュージカルの公演となっている。その後、記念撮影と会場を移動しての懇親会が行なわれた。

第1部では、佐藤部長の部長方針の説明、かながわ部内の7つのクラブの活動報告、かながわ部と横浜YMCAとの合同事業「農業祭」「新年会」「かながわ部ニューラリー」の紹介、山下真東日本区理事の挨拶が行なわれた。

第2部では、一般社団法人 Reaching Zero-Dose Children の活動報告が、片桐碧海代表により行なわれた。同団体はワクチンを一度も接種したことのない子どもたち（ゼロドースチルドレン）を対象に支援活動を行う組織である。今年度、Y’s×SDGs Youth Action 2026 に、10チームのひとつとして採択され、YMCA、ワイズから活動資金の援助を受けている。横浜市鶴見区で、外国にルーツを持ち、言語や社会性の遅れといった困難を抱えている子どもたちを支援している。今年度は、ポリオワクチンの普及啓発や、本物の聴診器を用いた体験、イケアの家具等を用いた食育・栄養学に関するワークショップ、歯並びと歯磨きの重要性を学ぶデンタルケアワークショップを導入した。

第3部では、大和クリエイティブクラブの会友竹田美奈子さん率いる「クリエイティブ・アーツ・トウキョウ」によるミュージカル「ニュージーズ」の一部が英語で上演された。1899年のニューヨークを舞台に、路上で新聞を売り歩くの少年たち（ニュージーズ）が大手新聞社に対して引き起こしたストライキの実話を基にした、熱気溢れるブロードウェイ・ミュージカルである。



[東京クラブからの参加者]メン＝江口。合計1名。

YMCAだより

担当主事　山梨雄一

東京YMCAでは、10月2日に「熊本地震被災地支援活動報告会」をオンラインで開催し、避難所運営や「あおぞらキャンプ」の活動が報告されました。10月3日・4日には山中湖センターで「第2回ユニバーサルフェスタ」を開催し、多様な背景を持つ子どもたちが交流を深めました。11月14日には新宿で「東京YMCA国際協力一斉街頭募金」を実施予定です。ぜひお立ち寄りください。また、12月13日には東陽町センターで「クリスマスオープンハウス」を開催予定です。国際協力募金にもつながる取り組みとなりますので、皆さまのご参加、ご協力をお願いいたします。

Happy Birthday

上原靖弘

Happy Anniversary

春日井明・康子、星野太郎・里奈、持田二郎